

自家産大豆を使った豆腐づくり

南魚沼

笛木佐也香さんと大津謙さんは、沖縄県にある農業法人で一緒に働いていたときに知り合い、昨年笛木さんの出身地である南魚沼市大月で就農しました。

普及指導センターは事前に2人から就農相談を受け、南魚沼市と連携して青年等就農計画作成の支援を行いました。そして、笛木さんが認定新規就農者となり青年就農給付金を受けながら「ふえき農園」の経営をスタートさせました。

農園では、昨年JAS有機認証を取得した大豆を中心に、にんじんなどを栽培しています。今年の6月には、作業所に加工施設を設置し、豆腐などの製造販売を開始しました。原料は自家産大豆や県内産の有機栽培大豆を使用しています。

販売している商品はおぼろ豆腐と木綿豆腐のほか油揚げや



笛木さん、大津さん

厚揚げ、がんもどきです。がんもどきに入る野菜は自家栽培のもののほか、他から仕入れる野菜もJAS有機認証のものを使用するなど、材料にはこだわっています。

2人は今後も、地場産の材料を使った安心・安全の豆腐づくりを行い、販路拡大や新商品の開発を目指すと話しています。普及指導センターでは、これからも「ふえき農園」の経営計画の実践と、6次産業化の取組を支援していきます。



おぼろ豆腐（丸）と木綿豆腐（四角）

目にとまれ！「稲作情報看板」活躍中！！

十日町



農協の工夫により各地に大型看板を設置

米穀販売店の店頭や作業所にも張り出し開始！

設置しています。

看板は農業者が通る主要道路に設置し、文面は、運転に支障がないよう一言にまとめるように工夫しています。これまでに、「老化苗注意」「あわてず安全農作業」「現在適期遅れ

ず中干し」「間断かん水丈夫な根」「穗肥は適期に」「カメムシ注意報」等を掲げてきました。

今年度は新たに、農業法人の作業所6ヶ所、米穀販売業者の店頭4ヶ所からも看板設置の協力をいただきました。看板の設置箇所数は少しづつ増加しており、今年度は57ヶ所となりました。

これからも十日町地域産米の品質向上に向けたわかりやすい情報伝達をめざし、関係機関で協力し合って看板設置を続けていきます。

十日町地域農業振興協議会では、平成22年から稲作情報看板を設置しています。

この看板は兼業農家の皆さんに「いかに情報を早く正しく伝えるか」を考え、農業者の意見や普及指導員の発案をもとにJAに設置を働きかけて実現しました。開始した当初は、忙しい中での貼り替え作業がなかなかスムーズに行きませんでしたが、今では、各関係機関・団体で貼り替え場所を分担し、すみやかに貼り替えできるようになりました。毎回文面は十日町農業普及指導センターが考えて提案、JAと協議したのち、印刷して関係機関に配付する流れでタイムリーに